



同好会ひろば

第261号
H28. 11. 7
No.4

次期学習指導要領改訂作業の動向を意識して

現在、次期学習指導要領改訂作業が行われています。「社会・地理歴史・公民ワーキンググループ」の取りまとめでは、改訂の方向性が以下のように述べられています。

社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養うためには、現行の学習指導要領において充実された伝統・文化等に関する様々な理解を引き続き深め、児童生徒が生きる現在および将来の社会の変化を見据え、その課題について指導することが必要である。将来の予測が困難な時代であるが、**グローバル化、持続可能な社会の構築、情報化**等による産業構造の変化、**少子高齢化**等による地域社会の変化など将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。

また、グローバル化や持続可能な社会の形成への対応については、次のようにも述べられています。

グローバル化する国際社会を主体的に生きるための資質・能力の育成の観点から、日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について（中略）時間的・空間的など多様な視点から考察する力を身に付けていくことが求められる。

グローバル化への対応の観点も含め、持続可能な社会づくりの視点が一層大切になっている。

今号では、以上の改訂作業の動向を基に、持続可能な社会づくりに必要な「人権」という視点と、社会のグローバル化に対応する教師として備えるべき資質・能力に着目し、現在、「なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや」にお勤めの儀満克比古先生の訪問インタビューと、社会科同好会研修部会長で大磯小学校長の山田百合子先生のご講演を掲載しました。

【第261号 紙面】

次期学習指導要領改訂作業の
動向を意識して・・・(p1)

訪問インタビュー
ソレイユプラザなごや 儀満克比古先生・・・(p2・3)

9月小・中学校部会 ご講演
名古屋市社会科同好会研修部会長
大磯小学校長 山田百合子先生・・・(p4)

9月小・中学校部会
授業づくり研修会 活動報告・・・(p5)

日々雑感 万場小学校 教頭 石原和明先生
今後の予定・・・・・・・・・・・・(p6)

儀満克比古 先生

現在、「なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごや」にお勤めの儀満克比古先生。

「人権」という視点から教育を充実させていくために必要なことについてのお話を伺いました。



<経歴>

昭和 52 年、名古屋市立稲生小学校に着任。以降、甘軒家小、汐路小、しまだ小、稲西小、御器所小を経て、山根小校長に。その後、筒井小校長、志段味東小校長を歴任。

名古屋市社会科同好会では、事務局長、会長を務められた。

「人権」を考える・伝える

なごや人権啓発センター ソレイユプラザなごやでの仕事は、「人権」を伝える仕事であって、「福祉」を伝えることに特化した内容ではないという強い思いがあります。小学生の見学を受け入れるにあたって、最初から「介助・介護の方法を教えてほしい」というご要望には応じていません。そのこと以前にもっと大切なことがあると思うからです。目に障害のある方に対して、当然のように点字が読めると思い込んで、点字の手紙を送りつけてしまうような人間が育っては困るのです。昨年度、市内のある小学校の6年生が見学の事後アンケートで答えてくれたように、「その人が本当に助けてほしいと思っているかを考えてサポートできるようになりたい」「障害者の人々に対して一番大切なのは、健常者と同じように接することだと思う」という子どもが、体験を通して、数多く育っていくことを今後も期待しています。

「人権」を考える一つの手掛かりとして、ユニヴァーサルデザインの考え方があります。ユニヴァーサルデザインとは、障害のあるなしに関わらず、誰でもが豊かで快適な生活を送ることができるようにするものです。国際ユニヴァーサルデザイン協議会の設立に際して、故寛仁親王が「100%の障害者はいないし、100%の健常者もいない」という言葉を残されています。そこで私は皆さんに、「皆さんにはどのような障害がありますか？」と問います。社会科同好会の会員であれば、この言葉が意味することを正しく理解し、心にもち続けることが必要であると感じています。

ソレイユプラザなごや から見えてきたこと

現在、私の同僚の方々は行政の方が中心です。行政の方々は、経験年数の少ない若い職員に対しても決して甘くありません。新卒1か月もしないうちに、「条例まで全部把握したのか」「人に尋ねる前に前年までのファイルから判断しろ」「もっとふかんに考えよ！」という厳しい言葉が飛び交っています。今、改めて教師の仕事を外から振り返り、見直す機会を得ています。世間から教員の世界は甘いと見られています。新任教師であっても、子どもが犠牲にならないように周りから手助けを受けることが多く、それが社会人としての甘さにつながってしまうのが現実ではないでしょうか。そこで、甘さを克服するためにも、是非、社会科同好会の場で思う存分、厳しい言葉をかけられてみてはどうでしょうか。自分への厳しさは、これだけは譲れないというこだわりにつながり、子どもたちへの良い厳しさとなって還元されていくものです。

名古屋市社会科同好会

一方で、教師の強みも再認識しました。ソレイユプラザなごやへ引率する教師の指導ぶりや子どもたちの反応、行儀に対して、同僚の方々から厳しい評価をもらうことがあります。私は、その背景に隠された真実を伝えながら、少しでも誤解が解け、評価がアップするよう日々努力しています。私と子どもたちとのコミュニケーションの様子を見せることで、同僚の方々に子どもの実態を好意的に理解していただけるように工夫しています。行政の方々はマニュアルを大切にします。しかし、子どもはマニュアル通りにはいかないのが現実です。「マニュアルはなければならないが、マニュアル通りはいけない」と思っています。マニュアルから逸脱したサービスでどれほどの子どもたちが助かっているかを、幾度となく目の当たりにしてきました。このことが、教師としての命だったように感じています。

人が人を大切にしようこと

話は変わりますが、最近話題の自動運転システムは、素晴らしい技術だと思います。しかし、それに任せてルームミラーに映る人や車に興味ももたない運転手は、コミュニケーションを拒絶したことにならないかとも思うのです。たとえ目と目を合わさずとも相手の微妙な動きから互いを思い合う運転をすることは、大げさかもしれませんが、人権感覚に結び付いていると思います。決して機械にコントロールされることなく、人間が機械をコントロールし続けることで、人が人を大切にしようことの重要性を見失わないようにしなくてはならないと強く感じています。社会の急激な変化を理解する上でも、そこには人と人との関わりが必ずあることを、社会科教師としてこれまで通り危機感をもって子どもたちや教育現場全体に伝え続けていってほしいと思っています。教師も子どもとの関わりの中で、子どもたちに何をどのように教え、どのように還元することができるか考えていくことが大切です。人を大切にしよう考えることは、素材を教材化する際の一つの視点にもなると思います。私は、今でも自分の話がどのように影響していくのかという展望をもって、「内容は目標にあっているか」「手段は適切か」という芯を外さない工夫を重ねながら話すようにしています。

社会科同好会への期待

私は、その場で即断し、発言することが苦手でした。言葉を発することが怖くて仕方ありませんでした。「一時の判断で言葉にしてしまっただけなのか」という思いが強くなりました。しかし、いつまでも甘えさせてはもらえませんでした。その後、立場によって、しゃべらざるを得ない状況が生まれました。特に、同好会という決して甘くはない場の中で、少しずつ鍛えられました。そして、余り背伸びせずに発言をスタートするようにすることで、何とか多くの方々の前で話をするようになったと思います。ただ、今振り返れば、「同好会の中でもっと自由にしゃべって、もっと恥をかければよかったのに」と反省しています。さて、今の同好会に、若い先生方がそれまでの教職経験や人生経験を基にして遠慮なく発言でき、思いっきり自己の恥をさらすことができる場があるでしょうか。「しゃべってもいいんだ」「ここでなら言える」という場であってほしいと思います。同好会と会員のさらなる成長を期待しています。



9月小・中学校部会 ご講演

「60か国を旅して ～社会科教師として～」

名古屋市社会科同好会研修部会長

大磯小学校長

山田百合子 先生

1. はじめに

海外を旅するようになり、30年が経ちました。学生だった頃、私は世界史が嫌いでした。実際に自分の目で見たり、現地の人やガイドに聞いたりすることで、苦手だった世界史を理解でき、初めて楽しいと感じることができました。今では渡航した国が60か国を数えるまでになりました。



2. アルジャジーラって？

アルジャジーラとは、カタールの衛星放送局のことです。アルカイダやイスラム国の犯行声明を放送することで知られています。だから、アルジャジーラを「イスラム過激派の手先」だと感じている方が多くいるはずですが。実際に見た社屋はまるで要塞のようであり、その様子からは「他からの圧力を受けない報道をする」という意志を感じました。

3. 民族対立による紛争

ブルガリアを訪れた際、バスの車中で突然セルビアとコソボの民族対立について話し出しました。よく聞いてみると、世界中の報道機関がセルビアのことを悪く言うが実際には違うこと、一方的な報道によるものであることを熱く語っていました。

4. オイルダラーは恐ろしい

カタールは産油国であることは知っていましたが、実際に訪れて驚きました。人口およそ200万人のうち、20万人がカタール人で、カタール国籍があるだけで一生優雅に暮らすことができます。国内の仕事は残り180万人の外国人労働者が請け負っています。

5. 十字軍は時代錯誤？

「十字軍がイスラム諸国に攻めてくる」とアルカイダやイスラム国が主張していることを聞いて、時代錯誤な話に思わず笑ってしまいました。しかし、マルタを訪れて聖ヨハネ騎士団が現存することを知りました。国土を有さない主権実体として国連にもオブザーバー参加し、94か国から承認されています。

6. 真の豊かさとは

景観を最優先にした生活を送る中世ヨーロッパの城郭都市に住む人々。宗教のしきたりを最優先にしているミャンマーやバリの人々。屋根と柱だけの家に住み、服もろくに身に付けていませんでしたが、それでも幸せそうに見えたカンボジアの親子。真の豊かさとはいったい何かを考えさせられました。

7. おわりに

どんな報道でも、常に一定のフィルターにかけられています。我々は「これが正しい」という考えに陥りがちです。しかし、それは限られた情報による現時点での判断であり、常に新しい知識を学ぼうとする謙虚な姿勢が大切だと60か国を旅した経験を通して思い知らされました。「解答はない」という意識をもって、問い続けることが大切です。貪欲に突き詰めていってください。

9月小・中学校部会 活動報告 9月8日(木)於 名古屋市中企業振興会館

小学校部会では、2学期中に、推進部員全員が全小社研名古屋大会の理論に基づいた実践を行います。9月小学校部会では、それぞれの実践において特に強調したいところを中心に計画を発表しました。

中学校部会では、1学期実践の成果と課題を踏まえた2学期の実践計画を各分野グループが発表しました。地理的分野グループは「東北地方」、歴史的分野グループは「明治維新と立憲国家への歩み」、公民的分野グループは「現代の民主政治」で実践を行います。

授業づくり研修会 活動報告

今年度は、「わくわく！子どもが目を輝かせる社会科の授業づくり」と題して、年間5回の「授業づくり研修会」を開催します。これまでに、以下の内容で4回開催しました。

今回は、1月17日(火)に「社会科の評価」という内容で行います。



【第3回授業づくり研修会の様子】

回	日にち	内容	講師
1	6月8日	資料づくり・資料活用	山口喬史(橘小)岡村佳和(笈瀬中)
2	7月28日	学習問題のつくり方	大西大介(相生小)矢吹 隆(はとり中)
3	8月26日	学習のまとめ方	山本健悟(引山小)岡本慎二(富士見台小)関 真輔(今池中)
4	10月28日	すぐに使える授業のアイデア	近藤智章(旭丘小)加藤理恵(野跡小)立野淳一(南陽東中)

《これまでの参加者の声》

- 意図をもって資料を活用することで、引き出したい子どもの反応や授業の流れを作り出せるということがわかりました。明日からの授業に早速生かしていきたいです。
- 「学習問題づくり」について、とても詳しく聞くことができました。その中で「課題」と「めあて」が大切であることを実感しました。

一昨年、PTAバレーの練習で、怪我をしました。また、お正月休みに数kg太り、娘にお腹が出てきたのではないかと指摘されたことがきっかけとなり、休日にランニングをすることにしました。

最初は、すぐに膝が痛くなり、「怪我をしないために走り始めたのに、こんなこともできなくなったのか」と情けなく思いました。接骨院の先生からは、「歩くことから始めないと逆効果だよ」と笑われました。とは言うものの私は「歩くことぐらいは毎日職場でやっている」との自負もあり、走ることにこだわり、運動靴を膝の負担が少ないものに替え、スポーツセンターのランニングマシンで走りました。1・2週間に1度の運動でも、続けていくと成果が出てきました。

「12km/hで前回は5分走れたから30秒余分に走ろう」などと決めて走ると何とかできるようになり、次は6分、7分、8分、…、13km/hでは、…と小さな挑戦をクリアするのが楽しみになりました。「できるようになるというのはうれしいことだな」と思いました。途中で気付いたのですが、スポーツセンターに、体重、体脂肪量、筋肉量や基礎代謝、体水分率などから体年齢が測定できる測定器が置いてありました。しっかり運動した後に乗ると数値がよくなるので、若返っていく測定結果を励みにしてトレーニングを続けることができました。

最近では、スポーツセンターの帰りに、少しふらつきながら、測定器で体年齢が20代になった結果を見てにっそりと笑っています。

日々接している子どもたちにも、様々な面において、スモールステップで力をつけていけるように配慮することや、数値など目で見えて分かる成果を感じさせることは、大事なことだと思います。

同好会ひろばの不備・訂正について

広報誌「同好会ひろば」第260号（平成28年度 No. 3）で、一部の方の手元に届いたものに印刷の不備がありました。大変申し訳ありませんでした。今後、このようなことがないように注意して参ります。万が一、印刷の不備があったものをお持ちの方がいらっしゃいましたら、稲永小学校 植村宏明 までご連絡ください。

今後の予定

平成28年

○11月7日（月）全小社研名古屋大会反省会・同好会懇親会

18:30～ ルブラ王山

○11月29日（火）小学校部会

18:30～ 愛知県スポーツ会館

中学校部会

19:00～ 愛知県スポーツ会館

平成29年

○1月17日（火）第5回授業づくり研修会

18:45～ 名古屋市中小企業振興会館

小・中学校部会合同研究発表会

19:15～ 名古屋市中小企業振興会館